

定期作況報告

平成10年11月

(11月20日現在、最終)

北海道立北見農業試験場

1 . 気象経過

1) 前年9月以降の経過

9月：上旬の最高気温は平年より高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。中旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年より低かった。下旬の最高気温は平年より低く、最低気温は平年並みで、平均気温はやや低かった。降水量は上旬が平年より少なく、中旬がやや多く、下旬が平年並であった（月合計103mmで平年の84%）。日照時間は上旬が平年より多く、中旬がやや少なく、下旬が少なかった（月合計101.4時間で平年の90%）。

10月：上旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年並であった。中旬の最高気温は平年並で、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。下旬の最高気温は平年並で、最低気温と平均気温は平年よりやや低かった。降水量は上旬が平年より多く、中旬と下旬がやや少なかった（月合計59mmで平年の97%）。日照時間は上旬が平年並で、中旬が平年よりやや少なく、下旬がやや多かった（月合計155.7時間で平年の109%）。

11月：上旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温、平均気温はやや低かった。中旬の最高気温は平年より高く、最低気温は極めて高く、平均気温は高かった。下旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温は高く、平均気温は極めて高かった。降水量は上旬が平年より少なく、中旬と下旬が多かった（月合計108mmで平年の220%）。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬がやや少なく、下旬が平年並みであった（月合計127.1時間で平年の106%）。

2) 根雪期間中の経過

12月：上旬の最高気温は平年より低く、最低気温は平年並みで、平均気温はやや低かった。中旬の最高気温、最低気温及び平均気温はいずれも平年より極めて高かった。下旬の最高気温は平年より高く、最低気温、平均気温はいずれも平年並であった。降水量は上旬が平年よりやや多く、中旬と下旬が少なかった（月合計21.0mmで平年の53%）。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬と下旬が多かった（月合計173.7時間で平年の161%）。

1月：上旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年より極めて低かった。中旬の最高気温、最低気温、平均気温は平年並であった。下旬の最高気温は平年より低く、最低気温、平均気温は極めて低かった。降水量は上旬が平年並で、中旬が平年より多く、下旬が少なかった（月合計32.0mmで平年の133%）。日照時間は上旬が平年より多く、中旬が平年並で、下旬が多かった（月合計148.6時間で平年の132%）。

2月：上旬の最高気温は平年より低く、最低気温は極めて低く、平均気温は低かった。中旬の最高気温は平年並で、最低気温は平年より極めて低く、平均気温は低かった。下旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年より極めて低く、平均気温は低かった。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬が平年並で、下旬が少なかった（月合計10.0mmで平年の43%）。日照時間は上旬と中旬が平年よりやや多く、下旬が多かった（月合計163.5時間で平年の131%）。

3月：上旬の最高気温は平年並で、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。中旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温は高く、平均気温はやや高かった。下旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年より極めて高かった。降水量は上旬と中旬が平年より多く、下旬が少なかった（月合計35.0mmで平年の125%）。日照時間は上旬が平年並で、中旬が平年よりやや少なく、下旬が多かった（月合計186.8時間で平年の122%）。

3) 融雪期以降の経過

4月：上旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。中旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年より極めて高かった。下旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年より極めて高かった。降水量は上旬、中旬、下旬のいずれも平年より少なかった（月合計8.0mmで平年の15%）。日照時間は上旬、中旬、下旬のいずれも平年より多かった（月合計209.6時間で平年の159%）。

5月：上旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温はやや低く、平均気温はやや高かった。中旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並で、平均気温は極めて高かった。下旬の最高気温は平年に比べて高く、最低気温はやや低く、平均気温はやや高かった。降水量は上旬が平年より多く、中旬がやや多く、下旬が少なかった（月合計66.5mmで平年の117%）。日照時間は上旬、中旬、下旬とも平年より多かった（月合計218.4時間で平年の160%）。

6月：上旬の最高気温は平年に比べてやや低く、最低気温、平均気温は極めて低かった。中旬の最高気温は平年に比べて低く、最低気温はやや低く、平均気温はやや低かった。下旬の最高気温は平年に比べてやや低く、最低気温、平均気温は平年並であった。降水量は上旬が平年並で、中旬が平年より多く、下旬が平年並であった（月合計98.0mmで平年の167%）。日照時間は上旬が平年より多く、中旬がやや少なく、下旬がやや多かった（月合計165.8時間で平年の143%）。

7月：上旬の最高気温は平年並で、最低気温は平年に比べ高く、平均気温はやや高かった。中旬の最高気温は平年に比べてやや低く、最低気温は極めて低く、平均気温は低かった。下旬の最高気温は平年に比べて極めて低く、最低気温はやや低く、平均気温は低かった。降水量は上旬が平年より多く、中旬が少なく、下旬が多かった（月合計110.5mmで平年の139%）。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬が多く、下旬が少なかった（月合計127.9時間で平年の96%）。

8月：上旬の最高気温は平年に比べて極めて低く、最低気温は平年並で、平均気温は低かった。中旬の最高気温は平年に比べて低く、最低気温、平均気温はやや低かった。下旬の最高気温は平年並で、最低気温は平年に比べてやや高く、平均気温は平年並であった。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬がやや多く、下旬が多かった（月合計209.5mmで平年の164%）。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬が平年並で、下旬が平年よりやや少なかった（月合計96.2時間で平年の76%）。

9月：上旬の最高気温は平年に比べてやや低く、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。中旬の最高気温、最低気温及び平均気温は平年に比べてやや高かった。下旬の最高気温は平年に比べて極めて高く、最低気温は高く、平均気温も高かった。降水量は上旬が平年並で、中旬が平年より多く、下旬がやや多かった（月合計226.0mmで平年の175%）。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬がやや多く、下旬が多かった（月合計128.4時間で平年の118%）。

10月：上旬の最高気温は平年に比べてやや低く、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。中旬の最高気温、最低気温及び平均気温は平年に比べて極めて高かった。下旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温及び平均気温は平年並であった。下旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温及び平均気温は平年並であった。降水量は上旬が平年より多く、中旬がやや多く、下旬が少なかった（月合計63.0mmで平年の105%）。日照時

間は上旬が平年並で、中旬及び下旬が平年よりやや多かった（月合計155.5時間で平年の110%）。

11月：上旬の最高気温は平年並で、最低気温及び平均気温は平年に比べてやや高かった。中旬の最高気温、最低気温及び平均気温は平年に比べて極めて低かった。降水量は上旬が平年並で、中旬がやや多かった。日照時間は上旬が平年並で、中旬が少なかった。

農耕期間中（5月～9月）の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温：5月はやや高く経過し、中旬が極めて高かった。6月は低く推移し、上旬が極めて低かった。7月上旬は高く、7月中旬から8月中旬まで低かった。8月下旬から9月下旬までは平年並か高く経過した。この期間の平均気温の積算は2297.6で、平年より22.4少なかった。

降水量：5月下旬と7月中旬、8月上旬が少なく、6月中旬、7月上旬、下旬、8月下旬、9月中旬が多かった。この期間の降水量の積算は710.5mmで、平年より257.9mm多かった。

日照時間：5月上旬から6月上旬までと6月下旬、7月中旬が多く、6月中旬、7月上旬、下旬、8月上旬が少なかった。この期間の日照時間の積算は736.7時間で、平年より115.8時間多かった。

以上のことから、本年の農耕期間中の気象は、気温が平年並、日照時間が多く、秋季に多雨であった。

氣象表 1 - 1

項目 月·旬	平均氣溫 ()			最高氣溫 ()			最低氣溫 ()			降水量 (mm)			日照時間 (h)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9年上	17.5	16.7	0.8	23.0	21.1	1.9	12.2	12.4	0.2	10.0	30.3	20.3	55.3	38.9	16.4
9月中	12.6	14.7	2.1	17.8	19.4	1.6	7.9	10.3	2.4	48.0	42.6	5.4	28.8	37.7	8.9
9月下	11.6	12.7	1.1	15.5	17.5	2.0	8.2	7.9	0.3	45.0	50.3	5.3	17.3	36.2	18.9
10月上	10.9	10.5	0.4	15.9	16.4	0.5	5.1	4.7	0.4	31.5	10.1	21.4	49.2	47.2	2.0
10月中	7.7	8.7	1.0	13.8	14.3	0.5	1.1	3.4	2.3	14.0	24.5	10.5	42.8	44.2	1.4
10月下	5.2	6.3	1.1	11.7	12.2	0.5	-0.4	0.9	1.3	12.5	26.3	13.8	63.7	50.9	12.8
11月上	3.2	4.0	0.8	9.8	9.1	0.7	-2.3	-1.4	0.9	2.5	20.9	18.4	53.1	41.8	11.3
11月中	3.7	1.2	2.5	8.6	6.3	2.3	-0.4	-3.7	3.3	31.0	10.3	20.7	35.1	42.5	7.4
11月下	2.8	-0.5	3.3	7.2	3.8	3.4	-2.3	-4.7	2.4	74.0	18.1	55.9	38.9	35.5	3.4
12月上	-3.2	-2.2	1.0	0.6	2.4	1.8	-6.7	-6.8	0.1	19.0	12.9	6.1	41.8	36.2	5.6
12月中	-3.3	-6.5	3.2	2.1	-1.5	3.6	-8.1	-11.7	3.6	1.0	8.5	7.5	60.2	35.5	24.7
12月下	-6.2	-6.7	0.5	-0.1	-1.9	1.8	-11.6	-11.9	0.3	1.0	17.7	16.7	71.7	36.5	35.2
10年上	-11.7	-8.0	3.7	-6.1	-2.1	4.0	-17.4	-14.1	3.3	7.0	6.8	0.2	46.3	32.4	13.9
1月中	-8.7	-9.2	0.5	-4.0	-3.5	0.5	-14.8	-14.9	0.1	23.0	6.6	16.4	36.2	36.0	0.2
1月下	-13.4	-9.6	3.8	-6.2	-3.9	2.3	-19.4	-15.4	4.0	1.5	10.4	8.9	66.1	44.0	22.1
2月上	-11.5	-9.3	2.2	-5.3	-3.3	2.0	-18.8	-15.6	3.2	3.0	7.4	4.4	49.0	43.4	5.6
2月中	-10.3	-8.0	2.3	-2.7	-2.3	0.4	-18.3	-14.2	4.1	6.0	7.1	1.1	52.4	47.8	4.6
2月下	-8.1	-6.4	1.7	-0.6	-1.2	0.6	-15.7	-12.2	3.5	1.0	9.3	8.3	62.1	33.5	28.6
3月上	-5.6	-5.9	0.3	0.1	-0.4	0.5	-12.8	-12.2	0.6	10.0	5.3	4.7	57.2	55.5	1.7
3月中	-1.5	-2.8	1.3	2.8	2.1	0.7	-6.3	-8.4	2.1	24.0	8.3	15.7	43.5	50.9	7.4
3月下	1.4	-1.2	2.6	6.8	3.7	3.1	-3.6	-7.0	3.4	1.0	14.8	13.8	86.1	60.4	25.7
4月上	3.8	2.7	1.1	9.9	7.6	2.3	-2.5	-2.1	0.4	0.0	12.8	12.8	86.4	46.4	40.0
4月中	7.3	3.4	3.9	14.3	8.9	5.4	0.8	-1.8	2.6	5.5	17.0	11.5	70.2	42.4	27.8
4月下	10.5	6.2	4.3	17.2	11.7	5.5	3.6	0.5	3.1	2.0	22.8	20.8	53.0	42.9	10.1

気象表 1 - 2

項目 月・旬	平均気温()			最高気温()			最低気温()			降水量(mm)			日照時間(h)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
5月 上 中 下	8.6	7.5	1.1	16.0	13.0	3.0	1.1	1.8	0.7	34.0	15.0	19.0	69.6	42.7	26.9
	13.0	10.2	2.8	21.1	16.0	5.1	5.0	4.5	0.5	25.0	22.2	2.8	67.4	42.4	25.0
	12.6	12.0	0.6	19.7	18.0	1.7	5.0	6.0	1.0	7.5	19.8	12.3	81.4	51.0	30.4
6月 上 中 下	10.0	12.6	2.6	16.9	17.5	0.6	2.8	8.0	5.2	16.5	20.0	3.5	79.5	31.8	47.7
	13.0	14.3	1.3	17.5	19.5	2.0	9.0	9.7	0.7	67.0	20.8	46.2	29.0	38.5	9.5
	15.1	15.4	0.3	20.3	20.9	0.6	9.8	10.3	0.5	14.5	18.0	3.5	57.3	45.6	11.7
7月 上 中 下	17.9	17.0	0.9	22.1	22.5	0.4	13.6	11.7	1.9	44.0	20.3	23.7	23.5	48.8	25.3
	15.6	17.5	1.9	21.4	22.2	0.8	9.6	13.4	3.8	6.0	34.2	28.2	85.1	34.9	50.2
	17.6	19.9	2.3	21.2	24.8	3.6	14.4	15.5	1.1	60.5	25.0	35.5	19.3	49.3	30.0
8月 上 中 下	17.3	19.2	1.9	20.8	24.5	3.7	14.3	14.4	0.1	20.5	38.9	18.4	23.7	44.8	21.1
	17.6	18.8	1.2	20.8	22.9	2.1	14.4	15.2	0.8	54.5	34.9	19.6	28.7	31.0	2.3
	19.5	19.0	0.5	23.7	24.1	0.4	15.6	14.5	1.1	134.5	54.3	80.2	43.8	51.6	7.8
9月 上 中 下	16.5	16.6	0.1	20.1	21.1	1.0	13.3	12.2	1.1	32.5	31.0	1.5	29.5	39.2	9.7
	15.8	14.7	1.1	20.5	19.4	1.1	10.9	10.3	0.6	127.5	46.7	80.8	50.8	36.7	14.1
	14.7	12.5	2.2	20.4	17.2	3.2	9.8	8.0	1.8	66.0	51.8	14.2	48.1	32.6	15.5
10月 上 中 下	10.4	10.4	0.0	15.2	16.1	0.9	5.6	4.7	0.9	28.0	12.6	15.4	43.2	45.0	1.8
	11.7	8.6	3.1	18.1	14.4	3.7	6.0	3.2	2.8	35.0	20.2	14.8	50.4	45.0	5.4
	6.8	6.4	0.4	12.8	12.2	0.6	1.5	1.0	0.5	0.0	27.4	27.4	61.9	50.8	11.1
11月 上 中	4.9	3.9	1.0	9.3	9.4	0.1	-0.1	-1.6	1.5	15.0	17.7	2.7	47.8	44.5	3.3
	-1.1	1.4	2.5	3.5	6.5	3.0	-6.1	-3.4	2.7	18.5	12.6	5.9	32.2	41.0	8.8

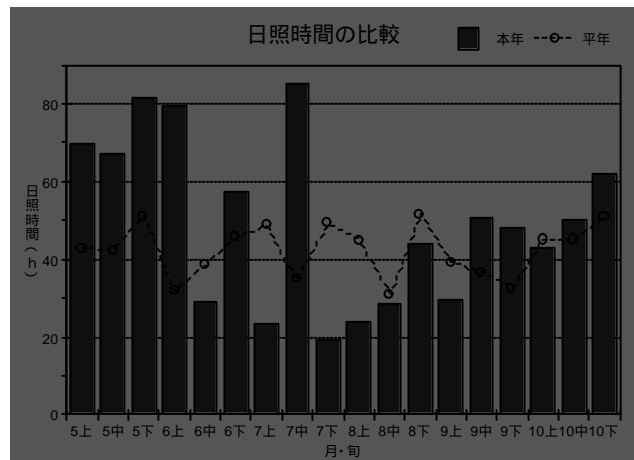
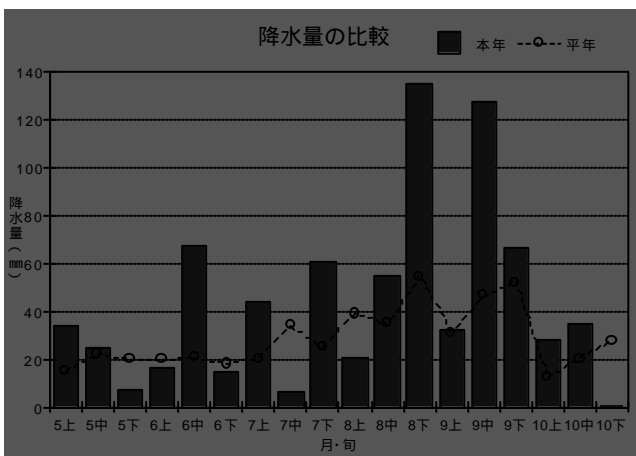
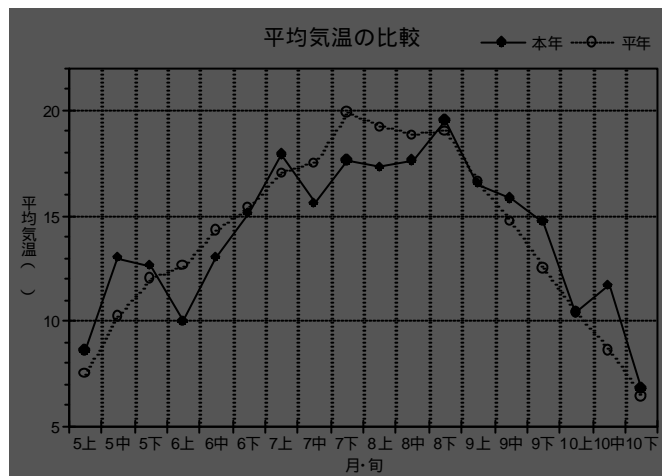
注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる。平年値は前10か年の平均値である。

季節表

項目 年次	前年 根雪始 月日	融雪期 月日	根雪期 日数	耕鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算（5～9月）		
										平均気温 （ ）	降水量 （mm）	日照時間 （h）
本年	12. 7	3.29	113	4.24	4.25	6. 3	10.21	139	11. 5	2297.6	710.5	736.7
平年	12. 8	4. 8	125	4.28	5. 4	5.25	10.10	137	11. 4	2320.0	452.6	620.9
比較	1	10	12	4	9	9	11	2	1	22.4	257.9	115.8

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。

2. 気温、降水量及び日照時間の平年との比較 (5月～10月)



2. 当場の作況

1) 秋播小麦

[平成9年播種]

作況：平年並

事由：播種は9月13日で、平年並か1日早く、出芽は平年並の9月20日で、良好であった。秋期の天候は、9月下旬、10月中下旬、11月上旬は低温、10月上旬、11月中下旬は高温に経過し、全体としては平年並の気温、降水量、日照で経過した。越冬前の生育量は平年に比べ草丈は低く、茎数は多かった。根雪始めは12月7日で平年より1日早く、融雪期は3月29日で平年より10日早く、根雪期間は115日で平年より9日短かった。冬枯れの被害はいずれの品種ともきわめて少なかった。融雪期が早く、また春先は高めの気温で日照も多く推移したため生育は進んだ。しかし6月に入って低温に経過したため、出穂期は平年に比べ3～7日早いに留まり、生育量も抑制気味となった。登熟期間中の気温はやや低め、特に最高気温は低く、降雨、日照は平年並に経過した。そのため登熟はゆっくりとなった。成熟期は平年に比べ2～6日遅く、登熟期間は平年に比べ8～11日長かった。成熟期の稈長、穂長は短く、穂数も少なかった。一穂粒数は6月に霜害を受けた「タクネコムギ」で少なく、他の品種は平年並であった。倒伏は平年に比べてきわめて少なく、「タクネコムギ」でわずかに発生した。病害では登熟後期に赤かび病が少し発生した。収量は「ホロシリコムギ」「チホクコムギ」の中生種は平年並、霜害を受けた早生種「タクネコムギ」は平年よりかなり劣った。千粒重は平年に比べ重く、リットル重は平年に比べ軽かった。検査等級は全品種とも2等であった。

以上のことから本年の作況は平年並であった。

[平成10年播種]

作況：平年並

事由：播種は平年並みか1日遅い9月14日に行い、出芽は9月24日で良好であった。出芽後は高温に経過して、越冬前の生育としては、草丈は平年を大きく上回り、茎数も平年並か多めであり、本葉7葉に達しており、越冬態勢としては十分である。

以上のことから目下の作況は平年並である。

9年播種 秋播小麦の生育期節と収量

品 種 名		ホロシリコムギ			タクネコムギ			チホクコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播 種 期 (月・日)		9.13	9.13	0	9.13	9.14	1	9.13	9.13	0
出 芽 期 (月・日)		9.20	9.20	0	9.20	9.20	0	9.20	9.20	0
出 穂 期 (月・日)		6.12	6.15	3	5.31	6.6	6	6.12	6.17	5
成 熟 期 (月・日)		8.3	7.28	6	7.24	7.22	2	8.2	7.27	6
草 丈 (cm)	平9年11月20日	17.6	22.0	4.4	17.5	20.4	2.9	18.3	21.6	3.3
	平10年5月20日	54.0	45.7	8.3	52.4	44.9	7.5	48.2	41.6	6.6
	平10年6月20日	99.1	103.3	4.2	100.8	105.3	4.5	89.8	93.0	3.2
稈長 (cm)	平10年7月20日	100	102	2	92	100	8	94	97	3
茎 数 (本/m ²)	平9年11月20日	1623	1575	48	2225	1687	538	2019	1789	230
	平10年5月20日	1611	1636	25	1275	1510	235	1424	1651	227
	平10年6月20日	752	861	109	850	947	97	833	862	29
穂数 (本/m ²)	平10年7月20日	633	726	93	806	909	103	746	767	21
穂長 (cm)	平10年7月20日	8.4	8.6	0.2	7.5	7.6	0.1	6.8	7.1	0.3
子 実 重 (Kg/10a)		551	551	0	422	515	93	548	544	4
同 上 平 年 比 (%)		100	100	0	82	100	18	101	100	1
1 粒 重 (g)		765	784	19	778	800	22	763	774	11
千 粒 重 (g)		44.1	40.7	3.4	40.6	37.1	3.5	35.7	34.7	1.0
検 査 等 級		2	2	0	2	1	1	2	2	0

注) 平年値は前7か年中、「ホロシリコムギ」は平成5、8年、「タクネコムギ」「チホクコムギ」は平成4年、8年を除く5か年の平均。

10年播種 秋播小麦の生育

品 種 名	播種期 (月・日)			出芽期 (月・日)			草 丈 (cm)			茎 数 (本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホロシリコムギ	9.14	9.13	1	9.24	9.20	4	24.8	19.8	5.0	1621	1567	54
タクネコムギ	9.14	9.14	0	9.24	9.21	3	23.6	19.2	4.4	1947	1777	170
チホクコムギ	9.14	9.14	0	9.24	9.21	3	25.4	19.9	5.5	1721	1790	69

注) 平年値は前7か年中、「ホロシリコムギ」は平成5年、8年、「タクネコムギ」「チホクコムギ」は平成4年、8年を除く5か年の平均。

2) 春播大麦(二条大麦)

作況：不良

事由：播種期は平年より3日早い5月1日であった。播種後の気温が高く、出芽期は平年より4日早い5月12日であった。出芽後の生育も順調であった。5月下旬から6月上旬の降水量が少なかったため、草丈の伸長は抑制された。また、6月中旬の気温が平年より低く経過したため、分けつの無効化はゆっくり進み、6月20日の茎数は平年と比べてやや多かった。出穂期はほぼ平年並の7月5日であった。稈長、穂長は平年並であるが、分けつの発生が旺盛であったため、穂数は平年より多かった。7月9日から11日の降雨により倒伏が「少」程度発生した。7月下旬以降は寡照に経過し、加えて7月下旬の降雨により倒伏が「中」程度に再発生したため、登熟は極めて劣った。成熟期はほぼ平年並の8月6日であった。千粒重は平年より著しく小さく、子実重は平年比83%であった。整粒歩合も著しく低く、平年を15ポイント下回った。粗蛋白質含量は平年より高く13.7%であった。

以上のことから本年の作況は不良であった。

二条大麦の生育期と収量

項目	品種名	りょうふう		
	年・比較	本年	平年	比較
播種期(月・日)		5. 1	5. 4	3
出芽期(月・日)		5.12	5.16	4
出穂期(月・日)		7. 5	7. 6	1
成熟期(月・日)		8. 6	8. 7	1
草丈(cm)	5月20日	10.7	8.4	2.3
	6月20日	40.1	47.6	7.5
稈長(cm)	7月20日	91	95	4
茎数(本/m ²)	6月20日	1,110	1,018	92
穂数(本/m ²)	7月20日	780	641	139
成熟期における	稈長(cm)	91	95	4
	穂長(cm)	6.5	6.4	0.1
	穂数(本/m ²)	780	636	144
	1穂粒数	22.1	22.0	0.1
	不稔率(%)	1.2	1.8	0.6
成熟期の倒伏程度		中	少	-
子実重(Kg/a)		36.5	44.1	7.6
同上平年比(%)		83	100	17
リットル重(g)		626	679	53
千粒重(g)		36.9	43.5	6.6
整粒歩合(%)		76.2	91.3	15.1
整粒重(Kg/a)		27.8	40.2	12.4
粗蛋白質含量(%)		13.7	11.4	2.3

(注) 平年値は、前7か年中、平成5, 7年を除く5か年平均。

3) 春播小麦 作況：やや良

事由：融雪期は3月29日で平年より10日早かった。耕鋤も早まり、平年より4日早い4月24日に播種した。播種後高温と多照に恵まれ、出芽は5月7日で平年より6日早かった。出芽後5月下旬までは高温と多照に経過し、生育は進んだ。しかし6月に入って低温となり、生育はゆっくりとなり、出穂期は平年よりわずか2日早いに留まった。出穂後は気温はやや低め、降雨、日照は平年並に経過し、登熟もゆっくり進んだ。成熟期は8月18日で平年より3日遅く、登熟期間は平年より5日長かった。成熟期の稈長は平年並、穂長は長く、穂数も多かった。一穂粒数は25.8でほぼ平年並であった。倒伏はなく、赤かび病の発生がやや多かった。千粒重は平年より重く、リットル重はほぼ平年並で、収量は平年を上回った。検査等級は平年と同じ2等であったが、やや発芽粒がみられた。

以上のことから今年の作況はやや良であった。

春播小麦の生育期節と収量

項目	品種名	ハルユタカ		
	年	本年	平年	比較
播種期(月・日)		4.24	4.28	4
出芽期(月・日)		5.7	5.13	6
出穂期(月・日)		6.29	7.1	2
成熟期(月・日)		8.18	8.15	3
草丈	5月20日	17.5	11.7	5.8
(cm)	6月20日	60.7	61.3	0.6
茎数	5月20日	346	327	18
(本/m ²)	6月20日	748	802	54

項目	品種名	ハルユタカ		
	年	本年	平年	比較
成 稈長(cm)		86	87	1
熟 穂長(cm)		8.8	8.3	0.5
期 穂数(本/m ²)		530	499	31
の				
子実重(kg/10a)		416	398	18
同上平年比(%)		105	100	5
1リットル重(g)		775	767	8
千粒重(g)		38.4	37.0	1.4
検査等級		2	2	0

注) 平年値は前7か年中、平成5年と平成9年を除く5か年の平均。

4) とうもろこし 作況：平年並

事由：播種期は平年より1日早い5月19日であった。出芽期は平年より6日早かったが、出芽後は霜と低温により、6月中旬までの生育はやや不良であった。6月下旬から7月中旬の生育は、気温がやや低かったが、日照時間が多かったため、平年並であった。7月下旬および8月上旬の低温寡照により両品種とも抽雄期が3日、抽糸期が2~3日遅かった。9月上旬の降雨と中旬の台風によって倒伏がみられた。収穫期は平年より4日遅い10月1日であった。9月下旬の気温は高く、日照時間が多かったものの、収穫時の熟度は糊熟後期であった。総体の乾物率は平年並であり、推定TDN収量の平年比は「ワセホマレ」が96%、「ダイヘイゲン」が101%であった。

以上、両品種の結果を総合すると今年の作況は平年並であった。

とうもろこしの生育期節と収量

項 目	ワセホマレ			ダイハイゲン		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期 (月・日)	5.19	5.20	1	5.19	5.20	1
出芽期 (月・日)	5.27	6. 2	6	5.27	6. 2	6
抽雄期 (月・日)	8. 1	7.30	2	8. 2	7.31	2
抽糸期 (月・日)	8.11	8. 8	3	8.11	8. 9	2
収穫期 (月・日)	10. 1	9.27	4	10. 1	9.27	4
収穫期の熟度	糊後	黄初	-	糊後	黄初	-
草 丈 6月 20日	20.4	23.0	2.6	20.5	24.7	4.2
(cm) 7月 20日	118	118	0	124	124	0
8月 20日	241	244	3	244	251	7
稈 長(cm)9月 20日	201	210	9	208	217	9
葉 数 6月 20日	4.2	4.5	0.3	4.0	4.5	0.5
(枚) 7月 20日	12.1	11.0	1.1	12.1	11.3	0.8
8月 20日	14.3	13.7	0.6	14.6	14.0	0.6
生総重 (kg/10a)	4358	4605	247	5058	5066	8
乾物茎葉重 (kg/10a)	589	601	12	607	618	11
乾物雌穂重 (kg/10a)	557	578	21	673	657	16
乾物総重 (kg/10a)	1146	1179	33	1280	1276	4
推定TDN収量 (kg/10a)	816	851	35	925	919	6
同上平年比 (%)	96	100	4	101	100	1
総体の乾物率 (%)	26.3	26.0	0.3	25.3	25.5	0.2
不稔個体割合 (%)	0.0	5.2	5.2	0.0	4.3	4.3

注) 平年値は前7か年中、平成5年、平成9年を除く5か年の平均。

$$\text{推定TDN収量} = \text{乾物茎葉重} \times 0.582 + \text{乾物雌穂重} \times 0.850$$

5) 大豆 作況：不良

事由：播種は平年より1日早い5月20日で、播種後の5月下旬は適度な降雨があり、平年に比べ最高気温が高く推移したため、出芽期は平年より5日早かった。しかし出芽後の6月上～中旬は低温に推移し、初期の生育は停滞した。7月は気象変動が激しく、上旬は平年より最低気温が高く多雨・寡照、中旬は最低気温がかなり低く少雨・多照、下旬は最高気温がかなり低く多雨・寡照であった。このため初期生育の遅れは回復せず、開花始は平年より4～5日遅かった。8月上～中旬は引き続いて最高気温が低く、日照不足傾向で推移したため、一部に稔実および着莢障害がみられた。8月下旬～9月中旬は、平均気温が平年並～やや高めに推移したが、8月下旬および9月中旬に集中的な豪雨があり、莢の伸長・肥大は一時停滞した。9月下旬以降、降水量は平年よりやや多かったが、9月下旬および10月中旬の平均気温が平年よりかなり高かったため、登熟の進行は概ね順調であった。しかし、初期生育時からの生育の遅延により、成熟期は平年より2～6日遅かった。

着莢数は稔実および着莢障害から両品種とも平年より少なく、百粒重は「トヨコマチ」で平年より軽かったため、子実重は「キタムスメ」で平年比87%、「トヨコマチ」で76%と低収であった。子実の品質は「キタムスメ」が平年並に良好で、「トヨコマチ」は開花後の低温により臍および臍周辺着色粒が多発し、平年より劣った。

以上のことから本年の作況は不良であった。

大豆の生育期節と収量

項 目	品 種 名	キ タ ム ス メ			ト ヨ コ マ チ		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期 (月・日)		5.20	5.21	1	5.20	5.21	1
出芽期 (月・日)		5.31	6.5	5	5.31	6.5	5
開花始 (月・日)		7.27	7.23	4	7.24	7.19	5
成熟期 (月・日)		10.15	10.9	6	10.3	10.1	2
主 茎 長 (cm)	6月20日	6.1	7.7	1.6	7.4	8.7	1.3
	7月20日	44.5	40.5	4.0	42.7	37.1	5.6
	8月20日	87.7	70.6	17.1	61.8	52.9	8.9
	9月20日	86.8	69.7	17.1	63.2	53.3	9.9
	成熟期	86.1	69.4	16.7	62.1	52.2	9.9
本 葉 数	6月20日	0.6	0.8	0.2	0.6	0.8	0.2
	7月20日	6.7	6.6	0.1	6.3	6.2	0.1
主 茎 節 数	8月20日	14.1	12.3	1.8	11.0	10.6	0.4
	9月20日	13.9	12.3	1.6	11.1	10.6	0.5
	成熟期	13.7	12.2	1.5	10.8	10.6	0.2
分 枝 数 (本/株)	7月20日	0.5	2.4	1.9	1.0	3.0	2.0
	8月20日	6.8	5.3	1.5	5.6	4.5	1.1
	9月20日	6.4	5.2	1.2	5.4	4.4	1.0
	成熟期	6.7	5.0	1.7	5.3	4.2	1.1
着 莢 数 (個/株)	8月20日	52.0	69.9	17.9	51.4	58.6	7.2
	9月20日	58.3	62.4	4.1	49.2	51.7	2.5
	成熟期	58.3	64.1	5.8	46.1	51.9	5.8
子実重 (kg/10a)		252	289	37	208	272	64
同上平年比 (%)		87	100		76	100	
百粒重 (g)		31.7	31.4	0.3	30.7	33.2	2.5
屑粒率 (%)		0.5	1.1	0.6	1.1	5.3	4.2
品質 (検査等級)		1	1		3中	(2上)	

注) 平年値は前7か年中、平成5年と8年を除く5か年の平均。ただし「トヨコマチ」の品質は平成6年も除く4か年の平均。

6) 小豆 作況：不良

事由：播種は平年より2日早い5月20日で、播種後の5月下旬は適度な降雨があり、平年に比べ最高気温が高く推移したため、出芽期は平年より7日早かった。しかし6月3日の降霜により、両品種とも一部出芽の早い個体が枯死した。また出芽がかなり早かったこと等の理由により土壌処理除草剤の薬害が生じ、「サホロショウズ」で症状が目立った。さらに出芽後の6月上～中旬は低温に推移したため、初期の生育は著しく停滞した。7月は気象変動が大きく、上旬は平年より最低気温が高く多雨・寡照、中旬は最低気温がかなり低く少雨・多照、下旬は最高気温がかなり低く多雨・寡照であった。このため初期からの不良な生育は回復しなかったが、開花始はほぼ平年並であった。8月上～中旬は引き続いて最高気温が低く、日照不足傾向で推移したため、主茎長・主茎節数とも平年を下回ったままで、着莢数は平年より少なかった。8月下旬～9月上旬は平均気温が平年並～やや高めであったが、8月下旬および9月中旬に集中的な豪雨があり、登熟は一時停滞した。しかし試験区の一部で湿害が生じたため成熟期は早まり、「エリモショウズ」の成熟期は平年より1日早かった。

百粒重は平年並～やや重かったが、生育量不足から着莢数が平年よりかなり少なかったため、子実重は平年比64～80%と著しく低収であった。子実の品質は平年より劣り、特に「サホロショウズ」では腐敗粒・未熟粒が多く、著しく不良であった。

以上のことから今年の作況は不良であった。

小豆の生育期節と収量

項 目	品 種 名	エリモショウズ			サホロショウズ		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期 (月・日)		5.20	5.22	2	5.20	5.22	2
出芽期 (月・日)		6.4	6.11	7	6.4	6.11	7
開花始 (月・日)		7.27	7.28	1	7.26	7.26	0
成熟期 (月・日)		9.26	9.27	1	9.23	9.21	2
主 茎 長 (cm)	6月20日	2.8	2.9	0.1	2.7	2.9	0.2
	7月20日	10.4	10.7	0.3	8.6	9.9	1.3
	8月20日	31.8	40.2	8.4	24.5	35.2	10.7
	9月20日	34.2	42.8	8.6	25.2	34.8	9.6
	成熟期	34.2	42.2	8.0	25.2	35.0	9.8
本葉 数	6月20日	0.2	0.4	0.2	0.3	0.4	0.1
	7月20日	5.1	4.7	0.4	4.7	4.5	0.2
主 茎 節 数	8月20日	10.9	12.0	1.1	9.3	10.1	0.8
	9月20日	11.6	12.1	0.5	9.8	10.0	0.2
	成熟期	11.6	12.2	0.6	9.8	10.1	0.3
分 枝 数 (本/株)	7月20日	0.2	0.8	0.6	0	0.7	0.7
	8月20日	3.0	2.5	0.5	1.7	2.8	1.1
	9月20日	2.7	2.5	0.2	1.4	2.9	1.5
	成熟期	2.7	2.4	0.3	1.4	3.0	1.6
着 莢 数 (個/株)	8月20日	15.6	25.1	9.5	19.8	29.3	9.5
	9月20日	37.8	43.7	5.9	33.4	41.9	8.5
	成熟期	37.8	44.9	7.1	33.4	42.8	9.4
子実重 (kg/10a)		257	321	64	175	274	99
同上平年比 (%)		80	100		64	100	
百粒重 (g)		15.0	15.2	0.2	17.3	16.4	0.9
屑粒率 (%)		1.9	2.9	1.0	4.9	3.4	1.5
品質 (検査等級)		2下	2中		規格外	2中	

注) 平年値は前7か年中、平成5年と9年を除く5か年の平均。

7) 菜豆

作況：不良

事由：播種は平年より2日早い5月20日に行い、「姫手亡」で5月30日、「大正金時」で5月31日に出芽期を迎えたが、6月3日の降霜により7～8割の個体が枯死した。このため6月8日に再播し、「姫手亡」は6月17日、「大正金時」は6月20日に出芽期を迎えた。7月は気象変動が大きく、上旬は平年より最低気温が高く多雨・寡照、中旬は最低気温がかなり低く少雨・多照、下旬は最高気温がかなり低く多雨・寡照であった。このため再播による生育の遅れは回復せず、開花始は平年より10～11日遅かった。8月上～中旬は引き続いて最高気温が低く、日照不足傾向で推移したため、莢の伸長・肥大は停滞ぎみであった。8月下旬～9月中旬は平均気温が平年並～やや高めであったが、8月下

旬および9月中旬に集中的な豪雨があり、登熟は一時停滞した。9月下旬および10月上旬は平年より降水量がやや多かったが、平均気温は平年並～高かったため、登熟の進行は概ね順調であった。播種以来の生育の遅延から、「大正金時」の成熟期は平年より13日遅く、「姫手亡」では成熟期前の10月8日に熟莢率64%で収穫した。

両品種とも着莢数は平年より少なく、8月下旬および9月中旬の多雨による滞水から一部の莢が腐敗したため、屑粒率は平年より高かった。これらにより子実重は平年比84～88%と低収であった。子実の品質は腐敗粒・色流れ粒が多かったため、「大正金時」では平年より劣った。

以上のことから本年の作況は不良であった。

菜豆の生育期節と収量

項 目	品 種 名	大 正 金 時			姫 手 亡		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期 (月・日)		6. 8	5. 22	17	6. 8	5. 22	17
出芽期 (月・日)		6. 20	6. 9	11	6. 17	6. 6	11
開花始 (月・日)		7. 22	7. 11	11	8. 1	7. 22	10
成熟期 (月・日)		9. 21	9. 8	13	64%	9. 24	-
草	6月20日	0	8. 7	8. 7	3. 0	5. 7	2. 7
	7月20日	26. 3	33. 2	6. 9	14. 7	30. 1	15. 4
丈	8月20日	39. 3	39. 1	0. 2	50. 2	46. 6	3. 6
	9月20日	41. 7	40. 4	1. 3	52. 9	47. 4	5. 5
(cm)	成熟期	41. 7	40. 4	1. 3	54. 7	47. 4	7. 3
本葉数	6月20日	0	0. 5	0. 5	0	0. 6	0. 6
	7月20日	3. 7	3. 2	0. 5	4. 2	6. 3	2. 1
主茎	8月20日	5. 7	5. 2	0. 5	9. 8	9. 2	0. 6
	9月20日	5. 8	5. 2	0. 6	9. 8	9. 2	0. 6
節数	成熟期	5. 8	5. 2	0. 6	9. 9	9. 2	0. 7
分枝数	7月20日	1. 2	4. 1	2. 9	0. 5	6. 1	5. 6
	8月20日	3. 1	3. 9	0. 8	6. 7	6. 6	0. 1
(本/株)	9月20日	3. 2	3. 5	0. 3	6. 8	6. 0	0. 8
	成熟期	3. 2	3. 5	0. 3	6. 0	6. 0	0
着莢数	8月20日	14. 2	16. 2	2. 0	26. 9	31. 9	5. 0
	9月20日	14. 5	17. 2	2. 7	35. 7	30. 6	5. 1
(個/株)	成熟期	14. 5	17. 2	2. 7	29. 5	30. 2	0. 7
子実重 (kg/10a)		238	269	31	292	348	56
同上平年比 (%)		88	100		84	100	
百粒重 (g)		78. 4	77. 4	1. 0	33. 9	33. 8	0. 1
屑粒率 (%)		7. 8	1. 5	6. 3	4. 0	2. 3	1. 7
品質 (検査等級)		4 下	3 上		2 中	2 中	

注) 平年値は前7か年中、平成6年と7年を除く5か年の平均。

8) ばれいしょ 作況：良

事由：植付期はほぼ平年並。植付後、高温に経過したため、萌芽期は早まった。萌芽期直後の6月3日の降霜により、萌芽していた株の1割程度に被害があった。萌芽後の低温と晩霜による生育の停滞があった。その後の茎長は降雨量の多さと少照の影響で軟弱徒長したが、平年より遅れて倒伏した。

倒伏の遅れと疫病が比較的良好に抑えられたことが最終作況に好影響を及ぼしたと見られる。開花始は早まった。

9月中旬から気温と日照は回復したものの、枯凋期はやや遅れた。

栽植密度が前年までと異なるため、いも数と一個重の比較は出来ないが、上いも収量は8月で平年を大きく上回り、枯凋後には3割近い多収となった。他方、でん粉価は平年値を大きく下回り、塊茎の充実が悪かった。でん粉収量は、両品種ともに平年比114%となった。

以上のことから本年の作況は、品質に問題を残すものの良と判定した。

ばれいしょの生育期節と収量

項目	品種名 年・比較	男 爵 薯			紅 丸		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期(月・日)		5.12	5.11	1	5.12	5.11	1
萌芽期(月・日)		6.1	6.4	3	5.28	6.2	5
開花始(月・日)		7.5	7.7	2	7.2	7.6	4
枯凋期(月・日)		9.11	9.10	1	10.8	10.3	5
茎長(cm)	6月20日	9.3	10.1	0.8	12.4	17.4	5.0
	7月20日	68	51	17	92	75	17
	8月20日	73	56	17	113	95	18
茎数 (本/株)	6月20日	3.1	3.6	0.5	3.6	3.7	0.1
	7月20日	3.7	3.7	0.0	4.1	4.1	0.0
	8月20日	3.1	3.7	0.6	4.0	4.1	0.1
でん粉価 (%)	8月20日	14.0	14.6	0.6	14.3	14.3	0.0
	9月20日	-	-	-	14.2	15.7	1.5
上いも数(個/株)		11.3	10.7	0.6	11.1	13.1	2.0
平均一個重(g)		107	111	4	133	107	26
上いも収量(Kg/10a)		5606	4520	1086	6830	5291	1539
同上平年比(%)		124	100	-	129	100	-
でん粉価(%)		13.8	14.9	1.1	14.2	15.8	1.6
でん粉収量(Kg/10a)		718	630	88	902	790	112
同上平年比(%)		114	100	-	114	100	-

(注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」では平成3年と6年、「紅丸」では平成6年と9年を除く5か年平均。

9) てんさい 作況：平年並

事由：移植栽培のは種、移植は、それぞれ平年より3、2日早く、その後の活着、生育は順調に経過した。移植後の日照時間は平年より多かったものの、5月下旬の乾燥と6月上旬から中旬にかけての低温のため、初期生育は平年並であった。直播栽培では、播種期は平年より2日早く、播種後の高温により出芽期は平年より4日早く、初期生育は良好であった。霜による被害は無かった。

6月下旬と7月中旬が多照に経過したことから、地上部の生育は平年より優り、根部の初期肥大も良好であった。7月下旬以降概ね低温寡照に経過し、地上部の生育は旺盛に推移したものの、根部の生育はやや停滞した。8月下旬以降の多雨の影響で根部の生育は停滞し、根周は、直播栽培では平年を上回ったが、移植栽培ではほぼ平年並となった。

収穫は平年並の10月20日に行った。根重は、直播栽培では平年を大きく上回ったが、移植栽培では平年並からやや下回った。根中糖分は、10月が多照に経過したことから、「スターヒル」と直播栽培の「モノホマレ」ではほぼ平年並となったが、移植栽培の「モノホマレ」では平年より劣った。このため糖量は、直播栽培では対平年比115と平年を上回ったが、移植栽培では2品種平均で対平年比96となった。

以上のことから、総じて、本年の作況は平年並であった。

表 てん菜の生育期節と収量

栽培法		移 植						直 播		
品 種 名		スターヒル			モノホマレ			モノホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期(月日)		3.26	3.29	3	3.26	3.29	3	5.7	5.9	2
移植期(月日)		5.7	5.9	2	5.7	5.9	2	-	-	-
出芽期(月日)		-	-	-	-	-	-	5.17	5.21	4
収穫期(月日)		10.20	10.20	0	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0
草 丈 (cm)	6月20日	22.0	25.2	3.2	23.2	22.1	1.1	15.7	12.8	2.9
	7月20日	54.4	51.0	3.4	56.5	51.5	5.0	55.4	47.9	7.5
	8月20日	69.5	60.4	9.1	73.2	60.0	13.2	70.9	64.7	6.2
	9月20日	37.7	60.0	7.7	72.1	60.0	12.1	71.5	65.1	6.4
生葉数 (枚)	6月20日	12.1	12.2	0.1	11.1	11.5	0.4	7.7	6.0	1.7
	7月20日	23.3	22.9	0.4	21.2	21.1	0.1	20.1	19.0	1.1
	8月20日	30.9	30.4	0.5	28.3	27.4	0.9	27.7	26.0	1.7
	9月20日	34.0	35.3	1.3	33.5	31.4	2.1	28.6	29.2	0.6
根 周 (cm)	7月20日	23.4	21.8	1.6	21.6	19.1	2.5	18.5	15.6	2.9
	8月20日	31.0	30.5	0.5	27.9	26.8	1.1	24.9	24.6	0.3
	9月20日	35.3	35.6	0.3	31.8	31.2	0.6	30.3	29.0	1.3
茎葉重(kg/10a)		6,436	5,480	956	7,871	5,606	2,265	6,779	5,460	1,319
根 重(kg/10a)		5,869	6,164	295	5,742	5,757	15	5,644	4,939	705
平 年 比		95	100	5	100	100	0	114	100	14
根中糖分(%)		17.41	16.93	0.48	17.35	18.36	1.01	17.20	17.14	0.06
平 年 比		103	100	3	94	100	6	100	100	0
糖 量(kg/10a)		1,022	1,040	18	996	1,054	58	971	843	128
平 年 比		98	100	2	94	100	6	115	100	15

注) 平年値：移植栽培の「スターヒル」は前7ヶ年中、平成3、9年を除く5ヶ年の平均、
「モノホマレ」は前8ヶ年中、平成2、7年および3年(欠測)を除く5ヶ年の平均。
直播栽培は前6ヶ年の平均。

10) 牧 草

作 況：不良

事由：チモシー混播及び単播草地の調査結果を第1表に、オーチャードグラス混播及び単播草地の調査結果を第2表に示した。萌芽期は平年に比べ8~9日早かった。冬枯れ程度は無または微であった。オーチャードグラス混播草地では春のマメ科被度が平年に比べ低かった。チモシーの出穂始及びアカクロウバの開花始はほぼ平年並であったが、オーチャードグラスの出穂始は平年に比べ早かった。草丈は、春には全ての草地・草種で平年に比べ高かったが、その後はアカクロウバの2番草及び混播草地のチモシーの3番草が平年より高かったのを除き、ほぼ平年並か、平年より低かった。マメ科率は、オーチャードグラス草地の1番草で平年より低く、チモシー両草地の2番草で平年より高かった他は、ほぼ平年並であった。乾物収量は、チモシー混播草地の1、2番草で平年より高かったが、他の草地、番草ではほぼ平年並か、平年より少なかった。オーチャードグラス混播及び単播草地の年間合計乾物収量の平年比は、それぞれ81%、79%であった。またチモシー混播及び単播草地の年間合計乾物収量の平年比は、それぞれ116%、90%であった。本年のオーチャードグラス混播・単播両草地及びチモシー混播・単播両草地を合計した年間乾物収量の平年比は94%であった。

以上のことから本年の作況は不良であった。

第1表 チモシー混播・単播草地の生育期節と収量

項目・番草	調査日	混播草地				単播草地			
		本年	平年	比較	平年比	本年	平年	比較	平年比
チモシー萌芽期(月.日)	-	4.14	4.22	8	-	4.17	-	-	-
アカクローバ萌芽期(月.日)	-	4.15	4.23	8	-	-	-	-	-
冬枯れ程度	5.18	無	-	-	-	微	-	-	-
全体被度(%)	5.18	94	88	6	-	-	-	-	-
マメ科被度(%)	5.18	58	64	6	-	-	-	-	-
チモシー出穂始(月.日)	-	6.16	6.16	0	-	6.17	6.18	1	-
チモシー出穂期(月.日)	-	6.19	6.20	1	-	6.21	6.22	1	-
アカクローバ開花始(月.日)	-	6.21	6.22	1	-	-	-	-	-
チモシー草丈(cm)	早春	5.18	38	30	8	-	41	34	7
1番草		6.18	91	102	11	-	83	99	16
2番草		8.7	88	89	1	-	60	67	7
3番草		10.7	57	49	8	-	44	45	1
アカクローバ草丈(cm)	早春	5.18	24	18	6	-	-	-	-
1番草		6.18	69	79	10	-	-	-	-
2番草		8.7	86	76	10	-	-	-	-
3番草		10.7	39	49	10	-	-	-	-
マメ科率(%)	1番草	6.18	55.7	52.4	3.3	-	-	-	-
	2番草	8.7	75.4	60.4	15.0	-	-	-	-
	3番草	10.7	68.6	70.4	1.8	-	-	-	-
乾物率(%)	1番草	6.18	20.1	14.5	5.6	-	26.9	20.5	6.4
	2番草	8.7	13.4	18.6	5.2	-	22.9	25.0	2.1
	3番草	10.7	18.2	20.2	2.0	-	26.3	29.8	3.5
生草収量(kg/a)	1番草	6.18	3286	3756	470	87	1499	2072	573
	2番草	8.7	2862	1819	1043	157	486	621	135
	3番草	10.7	945	865	80	109	365	345	20
	合計	-	7093	6440	653	110	2350	3038	688
乾物収量(kg/a)	1番草	6.18	658	544	114	121	403	429	26
	2番草	8.7	380	328	52	116	110	147	37
	3番草	10.7	172	172	0	100	97	100	3
	合計	-	1210	1044	166	116	610	675	66

- 注) 1. 各草種の品種はチモシーが「ノサップ」、アカクローバが「サッポロ」である。
2. 冬枯れ程度は、牧草の枯死割合から、無：0%、微：1~20%、少：21~40%、中：41~60%、多：61~80%、甚：81~100%枯死をそれぞれ示す。また混播草地の冬枯れ程度は、イネ科・マメ科両草種を合わせた枯死割合を示す。
3. 平年値は平成3年から平成9年までの前7か年のうち、混播草地は平成7年と平成9年を、単播草地は平成3年と平成7年を除く5年間の平均である。

第2表 オーチャードグラス混播・単播草地の生育期節と収量

項目・番草	調査日	混播草地				単播草地			
		本年	平年	比較	平年比	本年	平年	比較	平年比
オーチャードグラス萌芽期(月.日)	-	4.16	4.25	9	-	4.17	-	-	-
シロクローバ萌芽期(月.日)	-	4.14	4.22	8	-	-	-	-	-
冬枯れ程度	5.18	微	-	-	-	微	-	-	-
全体被度(%)	5.18	88	92	4	-	-	-	-	-
マメ科被度(%)	5.18	46	62	16	-	-	-	-	-
オーチャードグラス出穂始(月.日)	-	5.27	5.31	4	-	5.28	6.3	6	-
オーチャードグラス出穂期(月.日)	-	5.31	6.5	5	-	5.31	6.8	8	-
オーチャードグラス草丈(cm) 早春	5.18	37	29	8	-	40	32	8	-
1番草	6.5	73	79	6	-	68	74	6	-
2番草	7.17	82	91	9	-	66	83	17	-
3番草	8.24	78	78	0	-	61	64	3	-
4番草	10.7	54	55	1	-	48	58	10	-
シロクローバ草丈(cm) 早春	5.18	18	16	2	-	-	-	-	-
1番草	6.5	33	39	6	-	-	-	-	-
2番草	7.17	51	53	2	-	-	-	-	-
3番草	8.24	43	41	2	-	-	-	-	-
4番草	10.7	33	30	3	-	-	-	-	-
マメ科率(%) 1番草	6.5	20.7	30.5	9.8	-	-	-	-	-
2番草	7.17	38.4	32.9	5.5	-	-	-	-	-
3番草	8.24	16.8	17.0	0.2	-	-	-	-	-
4番草	10.7	21.8	18.9	2.9	-	-	-	-	-
乾物率(%) 1番草	6.5	16.1	14.9	1.2	-	18.5	17.0	1.5	-
2番草	7.17	17.1	17.3	0.2	-	23.7	22.9	0.8	-
3番草	8.24	15.5	18.6	3.1	-	18.3	22.0	3.7	-
4番草	10.7	19.6	21.6	2.0	-	19.6	22.9	3.3	-
生草収量(kg/a) 1番草	6.5	1330	2100	770	63	841	1191	350	71
2番草	7.17	1336	1671	335	80	627	926	299	68
3番草	8.24	1335	1121	214	119	762	726	36	105
4番草	10.7	583	588	5	99	453	479	26	95
合計	-	4584	5480	896	84	2683	3322	639	81
乾物収量(kg/a) 1番草	6.5	213	318	105	67	155	198	43	78
2番草	7.17	227	280	53	81	148	210	62	70
3番草	8.24	207	209	2	99	139	159	20	87
4番草	10.7	113	125	12	90	89	108	19	82
合計	-	760	933	173	81	531	674	144	79

- 注) 1. 各草種の品種はオーチャードグラスが「キタミドリ」、シロクローバが「カリフォルニアラジノ」である。
2. 冬枯れ程度は、牧草の枯死割合から、無：0%、微：1~20%、少：21~40%、中：41~60%、多：61~80%、甚：81~100%枯死をそれぞれ示す。また混播草地の冬枯れ程度は、イネ科・マメ科両草種を合わせた枯死割合を示す。
3. 平年値は平成3年から平成9年までの前7か年のうち、混播草地は平成7年と平成9年を、単播草地は平成3年と平成7年を除く5年間の平均である。